

「救急安心センターおおさか」 の取り組みと事業効果

救急車を呼ぶ? **病院**へ行く?

こんなときは「救急安心センターおおさか」へ

#7119

つながらない場合は
こちらへお電話ください

☎06(6582)7119

大阪市消防局 救急部 救急課
救急施策担当副課長 藤本 隆志

大阪市の救急（令和元年）

救急出場**件数**：245,105件（速報値）

救急**隊数**：64隊

1隊あたりの年間出場件数：3,829件



救急需要に対応することが必要



増
隊

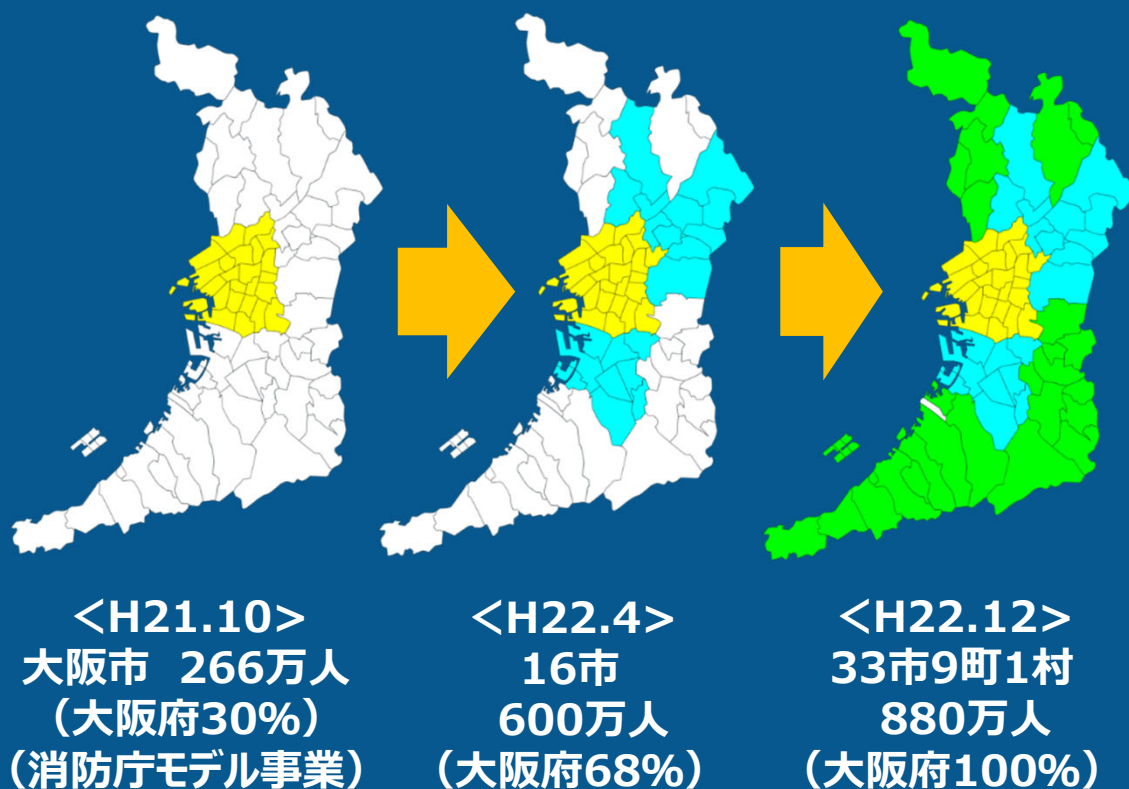


救急需要対策

- ・救急安心センター
- ・予防救急
- ・患者等搬送事業

「救急安心センターおおさか」の概要

消防組織法第39条に基づく「救急医療相談業務に係る応援協定」を締結して、「**救急安心センターおおさか運営委員会**」を構成して大阪府の全市町村で共同運営



- 令和2年度予算
約2億5千万円
大阪市 2分の1
大阪市以外の市町村 2分の1
(人口割・財政規模割)
- 構成員
医師・看護師・監督員
※医師、看護師は民間に業務委託
- 電話回線数
16回線

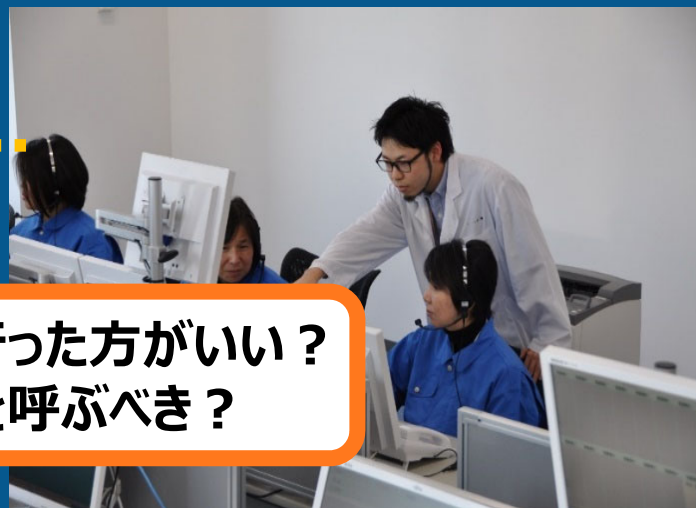
「救急安心センターおおさか」の着信後の流れ

突然の病気や
ケガで困ったら...

住民

病院に行った方がいい？
救急車を呼ぶべき？

#7119



各消防本部の
指令情報センター

転送

ホットライン

大阪市指令情報センター

転送
救急車必要

消防が
ワンストップ
で救急が
出場の
ため
主体となる
車可能

大阪府
医療情報サービス

医療機関案内

看護師

監督員
(消防職員)

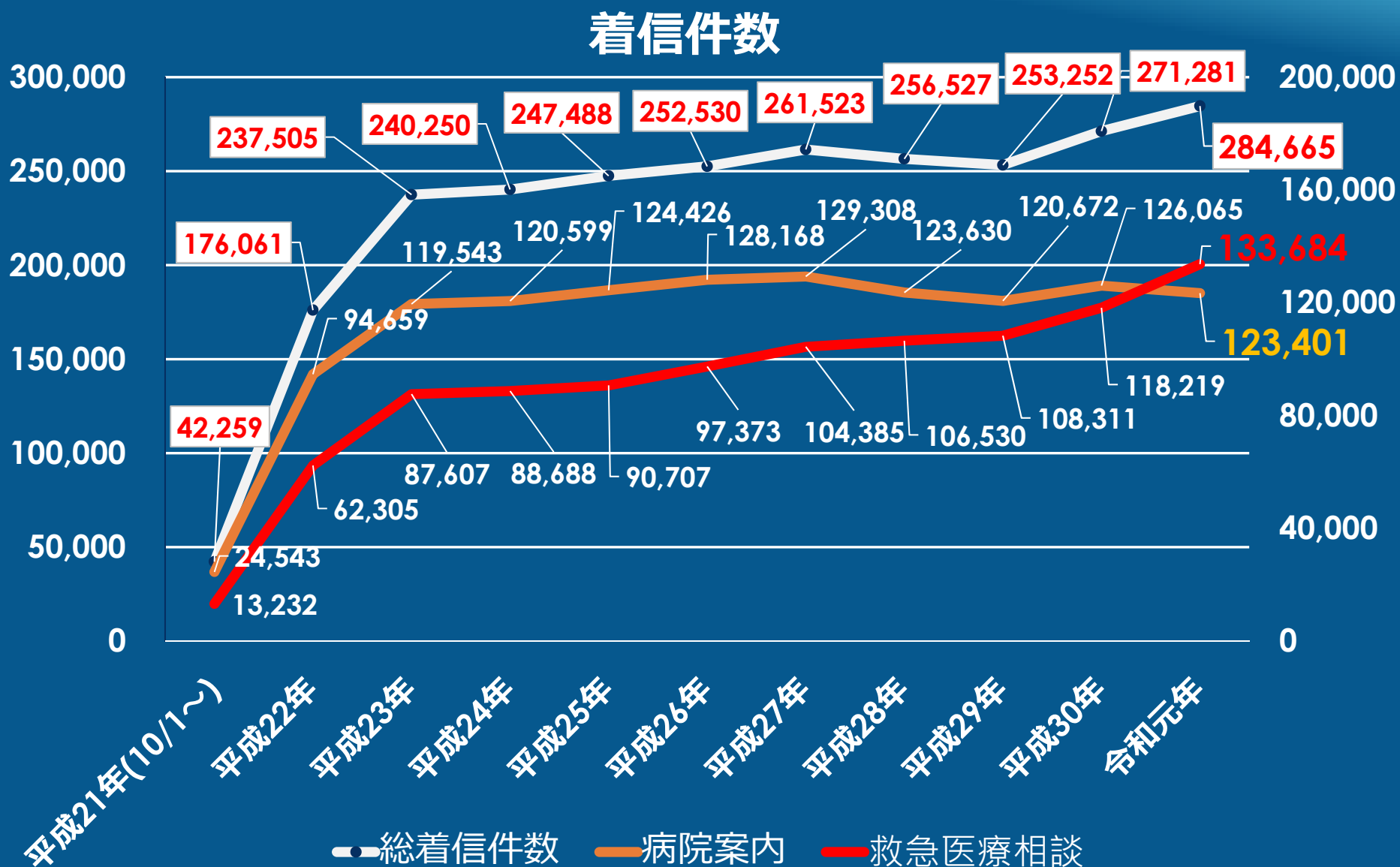
助言

医師

医療相談

緊急度判定

「救急安心センターおおさか」の着信件数の推移



「救急安心センターおおさか」の事業効果

「限られた救急車を有効に活用し、緊急性の高い症状の傷病者にできるだけ早く救急車が到着できるようにすることに加え、住民が適切なタイミングで医療機関を受診できるよう支援する。」

効果① <潜在する重傷者の救護>

救急出動後の傷病程度（大阪市内）

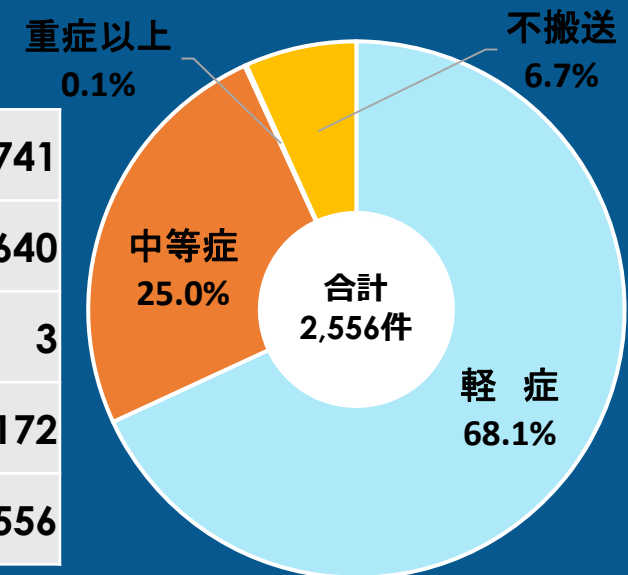
<令和元年中>

相談内容から
「119番へ転送し救急車が出場した」

総件数 5,507件
(全医療相談4.1%)

- ◆ 大阪市内 2,556件
- ◆ 大阪市内以外 2,951件

軽 症	1,741
中等症	640
重症以上	3
不搬送	172
合 計	2,556

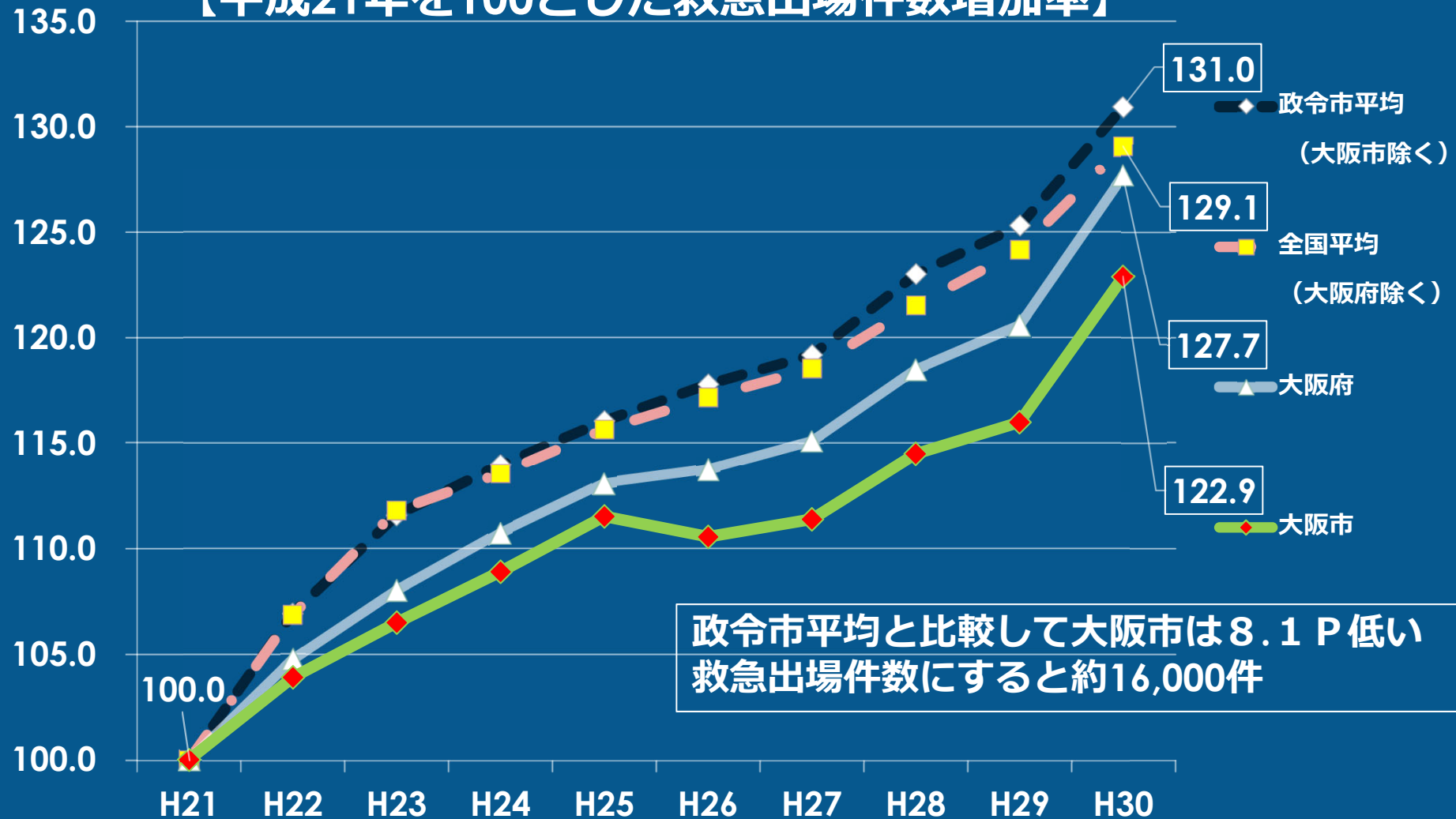


緊急入院者数 642人

「救急安心センターおおさか」の事業効果

効果② <不急の救急出場の抑制>

【平成21年を100とした救急出場件数増加率】



「救急安心センターおおさか」の事業効果

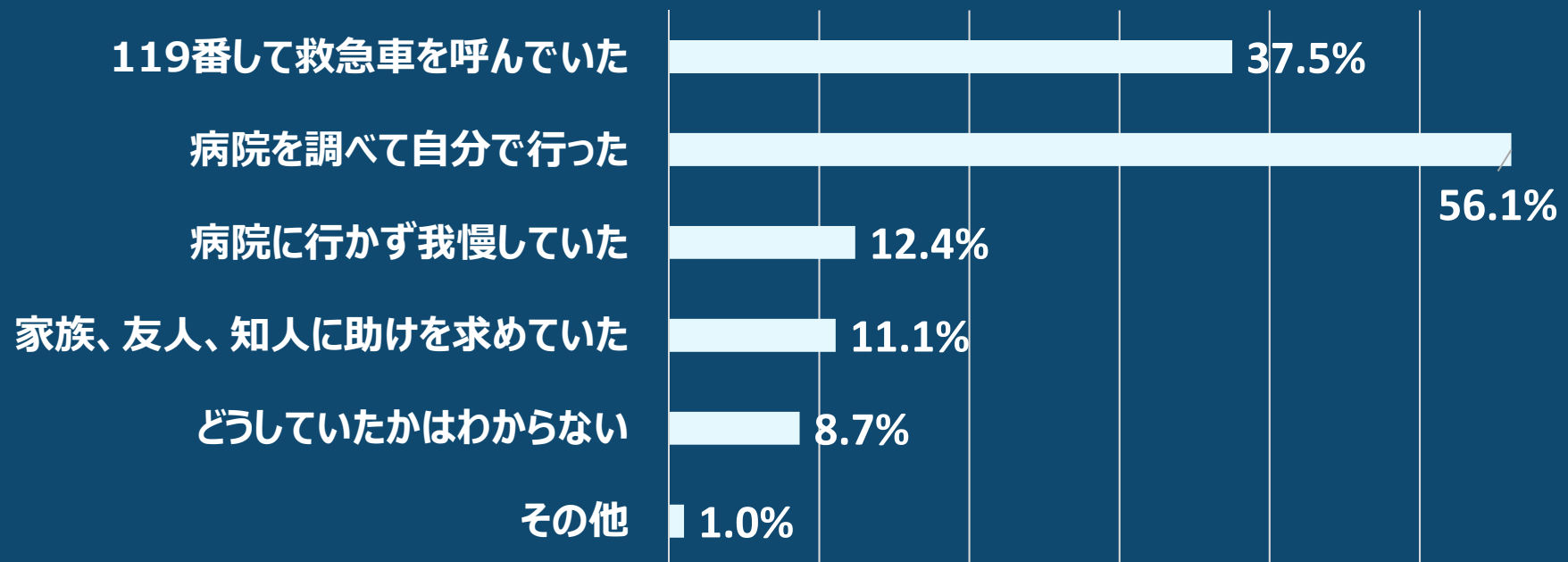
民間調査機関によるインターネットを利用したウェブアンケート

＜調査対象＞ 大阪府内在住で、過去に救急安心センターおおさかを利用したことのある方

◆ 大阪市内在住 500 標本 ◆ 大阪市以外在住 500 標本

＜調査期間＞ 令和2年2月21日から令和2年2月25日

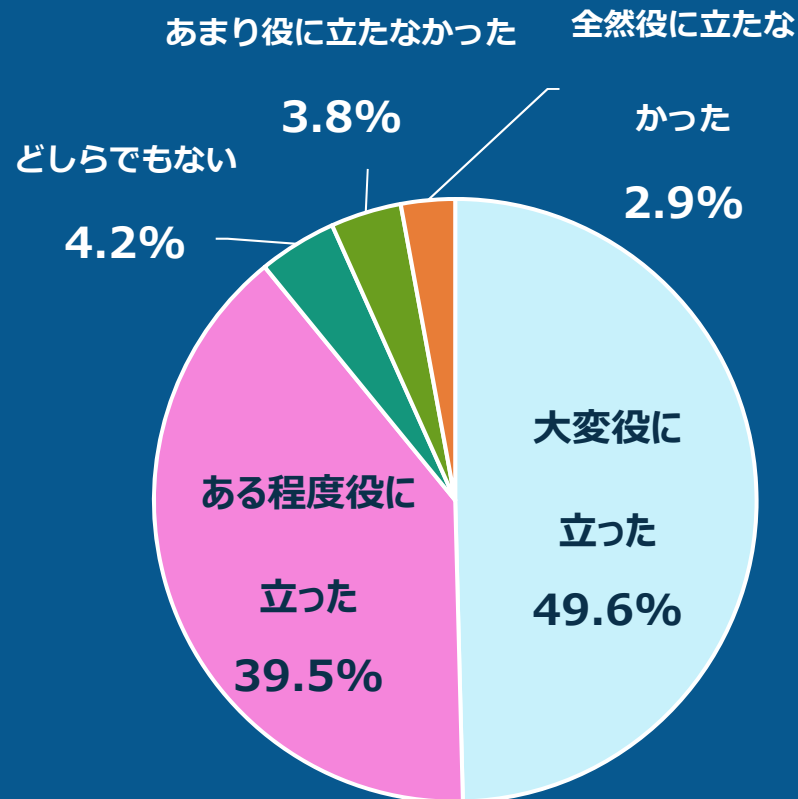
「救急安心センターおおさか」がなかったらその時どうしてたと思いますか？ (複数回答可)



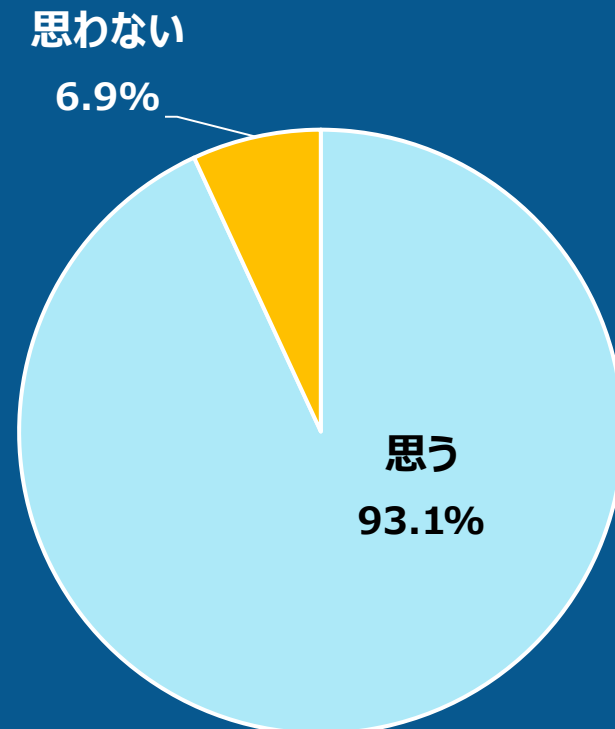
「救急安心センターおおさか」の事業効果

効果③ <不安な住民へ安心・安全を提供>

「救急安心センターおおさか」は
役に立ちましたか？



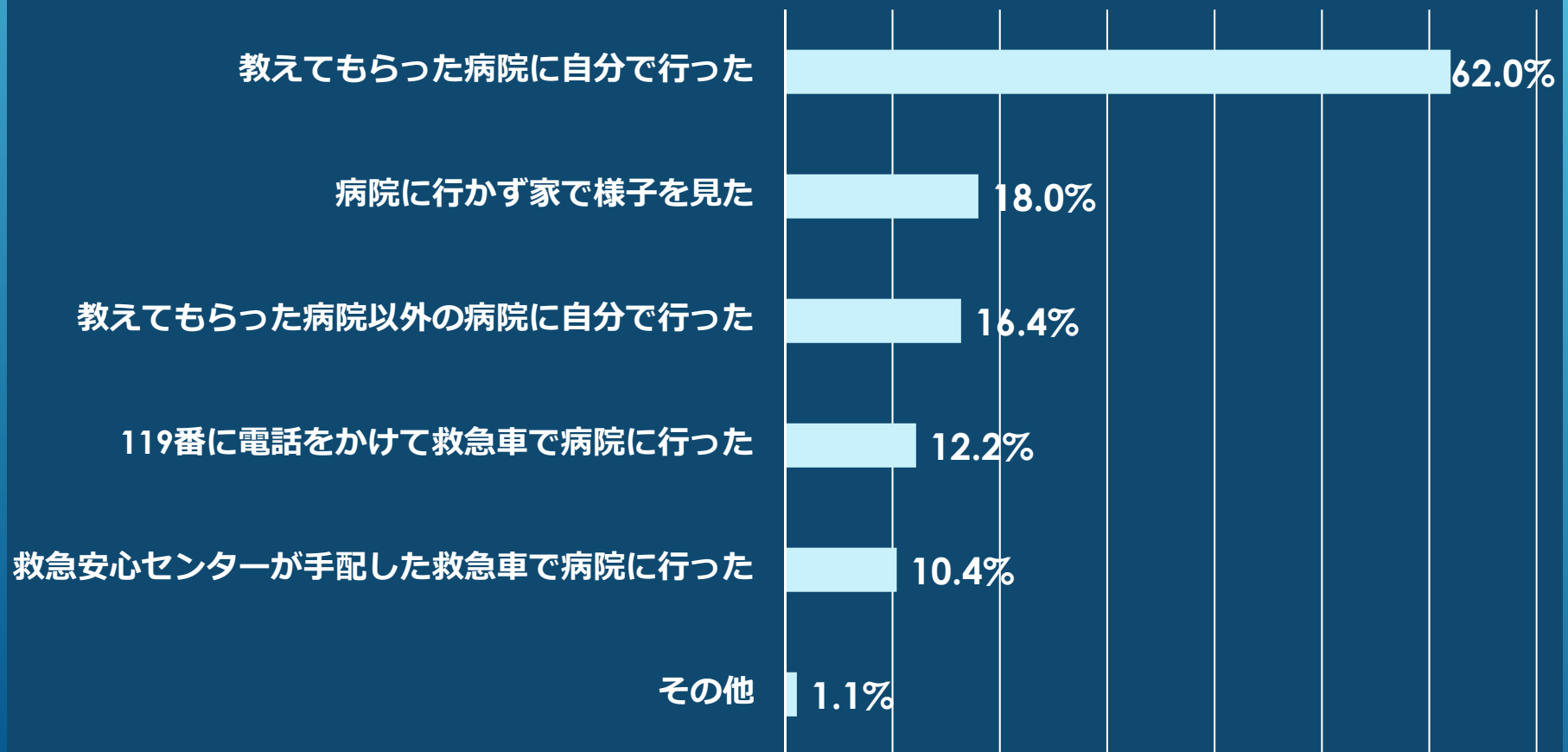
今後も「救急安心センターおおさか」を
利用しようと思いますか？



「救急安心センターおおさか」の事業効果

「救急安心センターおおさか」で相談後、どうされましたか？ (複数回答可)

〈救急安心センターに相談後の受診行動〉



「救急安心センターおおさか」の事業効果

効果④ <救急医療機関の受診の適正化>

救急安心センターおおさかへの医療相談件数
(令和元年中 プロトコル使用) 133,233件

	プロトコル 結果	件数	割合
救急搬送(119)が必要	赤	42,411	31.8%
救急車以外の手段での速やかな受診を勧める	橙	40,101	30.1%
6時間以内の受診を勧める	黄	31,574	23.7%
当日ないし翌日以降の受診を勧める	緑	10,366	7.8%
経過観察	白	8,781	6.6%

◆61.6%は救急車以外での受診勧奨 (橙・黄・緑)

◆14.4%は翌日以降の受診勧奨・経過観察 (緑・白)

「救急安心センターおおさか」の運用から見えた課題

<苦情>

救急安心センターで案内された病院が診てくれない
特に小児の外傷（脳外科、整形外科）

※救急安心センターアドバイザー連絡会でも情報共有

<結果>

119番で救急車を呼ぶケースが考えられる

「救急安心センターおおさか」
再案内調査（別紙参照）

大阪府に
申し入れ

科 目	医療機関 案内	再案内（15歳未満）				再案内（15歳以上）		
	件 数 (a)	件数 (b)	年齢区分別再案内 件数の各科目 別再案内比率 (b) / (c)	医療機関案内 に対する再案内 比率 (b) / (a)	件数 (d)	年齢区分別再案内 件数の各科目 別再案内比率 (d) / (e)	医療機関案内 に対する再案内 比率 (d) / (a)	
外 科	6,767	48	14.6%	0.7%	76	13.0%	1.1%	
脳神経外科	7,517	113	34.5%	1.5%	77	13.2%	1.0%	
整形外科	8,370	94	28.7%	1.1%	140	24.0%	1.7%	
形成外科	423	6	1.8%	1.4%	7	1.2%	1.7%	
内 科	15,984	—	—	—	147	25.2%	0.9%	
循環器内科	983	0	0.0%	0.0%	10	1.7%	1.0%	
呼吸器内科	329	0	0.0%	0.0%	6	1.0%	1.8%	
消化器内科	1,105	3	0.9%	0.3%	29	5.0%	2.6%	
神経内科	97	0	0.0%	0.0%	1	0.2%	1.0%	
小児科	15,681	43	13.1%	0.3%	—	—	—	
産婦人科	1,405	2	0.6%	0.1%	20	3.4%	1.4%	
泌尿器科	1,182	8	2.4%	0.7%	37	6.3%	3.1%	
皮膚科	795	0	0.0%	0.0%	11	1.9%	1.4%	
眼 科	1,582	2	0.6%	0.1%	2	0.3%	0.1%	
耳鼻咽喉科	2,236	4	1.2%	0.2%	10	1.7%	0.4%	
口腔外科	746	1	0.3%	0.1%	4	0.7%	0.5%	
歯 科	504	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	
その他（中毒相談等）	14	4	1.2%	28.6%	6	1.0%	42.9%	
合 計	65,720	328	100%	0.5%	583	100%	0.9%	

小児外傷救急医療体制に関する検討委員会

検討委員会では、小児外傷の受け入れ体制の整備にあたり、初期救急から三次救急までの救急医療体制に係る医療機関だけでなく様々な関係機関同士が連携した取り組みを進めていくため、電話相談事業（#7119・#8000）、消防機関、医師会、行政機関等を含め一体的な検討が行われた。

提言書

「小児救急支援アプリ」

(対象年齢／15歳未満)



子供のけがや病気の緊急度判定や近くの病院が検索できるアプリ

【病気 発熱の例】

該当する症状をタップしてください。
緊急時は迷わず119番へ

41℃以上の発熱がある。

一日中ウトウトしている。興奮している。暴れている

意識がもうろうとしている。おかしいことを言う。

生後3カ月未満で38℃以上の発熱がある。

特別な病気で熱が出たらすぐに病院に来るように言われている。

皮膚や唇が乾いていて、水分も十分取れていない。

暑いところにしばらくいた。激しい運動の後

判定

緊急度「高」

119番通報

119番通報し救急車を呼んでください。

緊急度「中」

救急安心センターおおさか

救急安心センターおおさかに相談してください。

緊急度「低」

救急病院検索

病院の検索を行います。

救急病院検索

ボタンをタップすれば、

G P S 機能を用いて、近くの医療機関を表示します。

戻る

病院検索

電話するには、病院名をタップしてください。必ず休診時間を確認して下さい。



多根総合病院

大阪市西区九条南1-12-21

小児科

月 08:30-16:30...

地図

休診時間

0.2 km



ながほり通り診療所

大阪市西区新町4-10-10

小児科

月 09:00-19:00...

地図

休診時間

1.3 km



日生病院

大阪市西区立売堀6-3-8

小児科

月 08:30-15:30...

地図

休診時間

1.4 km

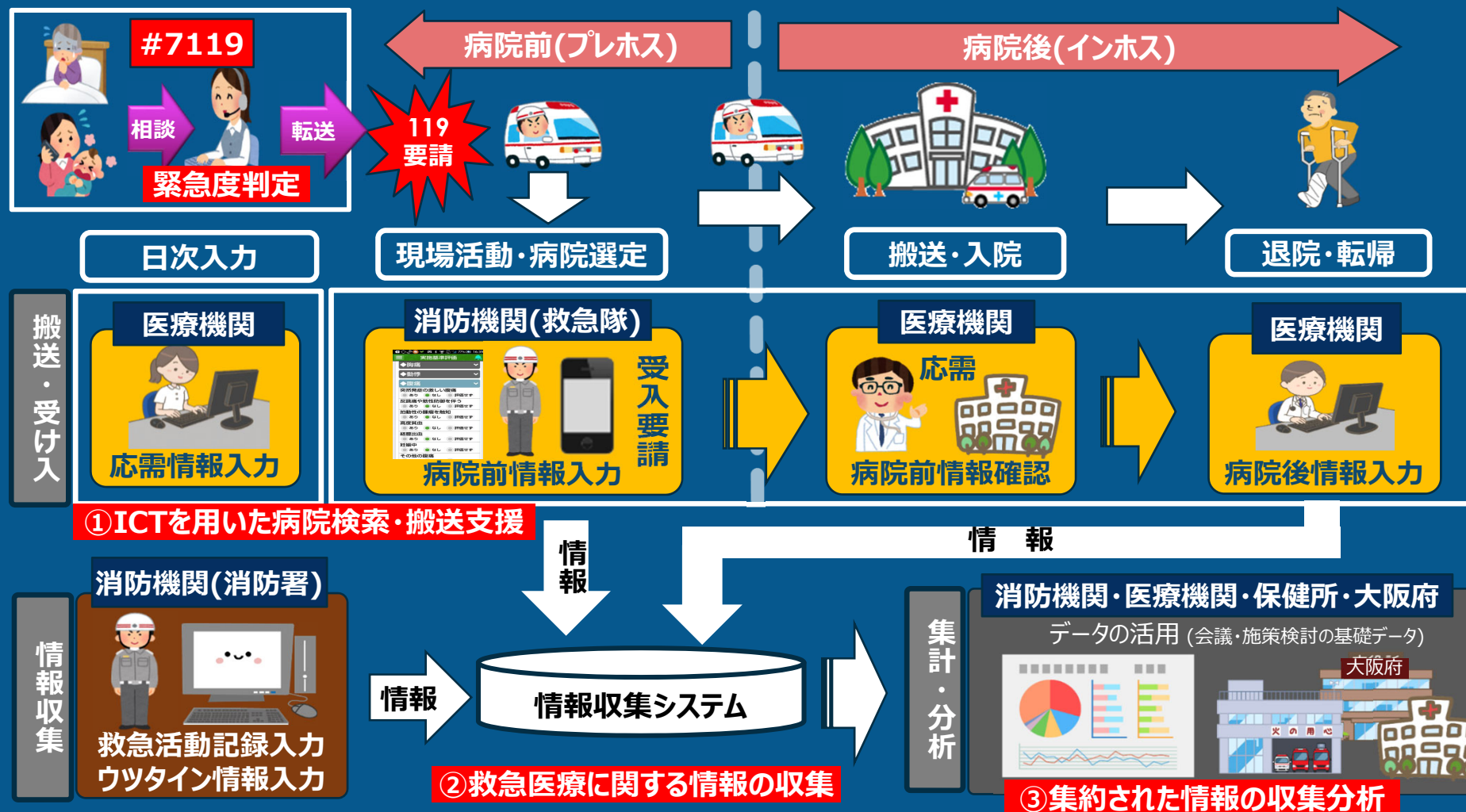
地図表示



「救急安心センターおおさか」事業の充実に向けて

大阪府救急搬送支援・情報収集・集計分析システム（ORION）の活用

ORIONとは、ICTを活用して病院前情報と病院後情報がリンクしたデータを集積できるシステム。「傷病者の搬送及び受け入れ実施基準」の内容をスマートフォンアプリ化した救急搬送支援システム、情報収集システム、及び集計分析システムからなる。



「救急安心センターおおさか」における再案内に係る調査

小児の外傷が他の診療科目と比較してどのような状態にあるのかを把握する目的で調査を行った。

- 調査対象 「救急安心センターおおさか」において案内をした医療機関に断られたため再度問い合わせがあった事案
- 調査期間 令和元年6月17日～9月30日（106日間）
- 調査結果 小児科は15,681件のうち、再案内となっているのは43件（0.3%）のみであることから、小児科ではほぼ受入れ先が確保されていると思われる。15歳未満の再案内件数全体に占める診療科別の割合としては、脳神経外科が34.5%、整形外科は28.7%となっており、15歳以上の再案内件数全体に占める割合の脳神経外科13.2%、整形外科24.0%を上回っている。また、成人も含む医療機関案内件数全体に対する15歳未満の再案内比率は、脳神経外科1.5%、整形外科1.1%、形成外科1.4%が1%を超えている。

『大阪市消防局再案内調査』

※構成比は小数点第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100にならない

科 目	医療機関案内	再案内（15歳未満）			再案内（15歳以上）		
	件数 (a)	件数 (b)	年齢区分別再案内 件数の各科目別再 案内比率 (b) / (c)	医療機関案内 に対する 再案内比率 (b) / (a)	件数 (d)	年齢区分別再案内 件数の各科目別再 案内比率 (d) / (e)	医療機関案内 に対する 再案内比率 (d) / (a)
外 科	6,767	48	14.6%	0.7%	76	13.0%	1.1%
脳神経外科	7,517	113	34.5%	1.5%	77	13.2%	1.0%
整形外科	8,370	94	28.7%	1.1%	140	24.0%	1.7%
形成外科	423	6	1.8%	1.4%	7	1.2%	1.7%
内 科	15,984	—	—	—	147	25.2%	0.9%
循環器内科	983	0	0.0%	0.0%	10	1.7%	1.0%
呼吸器内科	329	0	0.0%	0.0%	6	1.0%	1.8%
消化器内科	1,105	3	0.9%	0.3%	29	5.0%	2.6%
神経内科	97	0	0.0%	0.0%	1	0.2%	1.0%
小児科	15,681	43	13.1%	0.3%	—	—	—
産婦人科	1,405	2	0.6%	0.1%	20	3.4%	1.4%
泌尿器科	1,182	8	2.4%	0.7%	37	6.3%	3.1%
皮膚科	795	0	0.0%	0.0%	11	1.9%	1.4%
眼 科	1,582	2	0.6%	0.1%	2	0.3%	0.1%
耳鼻咽喉科	2,236	4	1.2%	0.2%	10	1.7%	0.4%
口腔外科	746	1	0.3%	0.1%	4	0.7%	0.5%
歯 科	504	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
その他（中毒相談等）	14	4	1.2%	28.6%	6	1.0%	42.9%
合 計	65,720	328	100%	0.5%	583	100%	0.9%

(c)

(e)

（大阪府における小児外傷救急医療体制に関する提言書より）